

「わーっ、マンモスさんだ！ すごくおおきくてつよそうだなあ」

草をたべていたマンモスが、ゆっくりとかおをあげました。

「どうじゃ、この<sup>きば</sup>牙！ りっぱじゃろう」

マンモスはグワーンとおおきな<sup>きば</sup>牙をふりまわしました。

「<sup>せかいじゅう</sup>世界中にわしの<sup>てき</sup>敵はおらん。

いちばんつよいんじゃ！ パオーン！」

「じゃがなあ……」

マンモスのこえがきゅうにちいさくなりました。

「<sup>ちきゅう</sup>地球がだんだんあたたかくなってきたのじゃ。

だいすきな<sup>べもの</sup>ものがなくなって、

こおっていた<sup>しめん</sup>地面がわれたり、

<sup>だい</sup>大<sup>かい</sup>こうずいがおこったりしてな……。

わしらはついに<sup>ぜつめつ</sup>絶滅してしまったのじゃ。」

